

延岡市文化財調査報告書 第33集

御堂原遺跡（第2次）

携帯電話無線基地局建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2007.3／延岡市教育委員会

序 文

この報告書は、ボーダフォン株式会社（現 Soft Bank）携帯電話無線基地局建設工事に伴い、ボーダフォン株式会社の委託を受けて発掘調査を実施し記録したものです。

延岡市では、各種開発事業の実施にあたり、埋蔵文化財の有無について確認・試掘調査を実施し、文化財の保護と啓発に努めています。

今回の開発計画に先立ち実施した確認調査では、中世の包蔵地として取り扱われている御堂原遺跡ではありましたが、縄文時代と主に先土器時代の遺物を確認することができました。

本発掘調査では、各時代の遺構・遺物の確認が期待されましたが、確認調査同様に先土器時代の遺物がメインとなっています。

延岡市ではこれまでの調査において、五ヶ瀬川流域における先土器時代の遺跡を確認していますが、今回、唯一空白地帯であった岡元町が加わることで、一連の先土器時代遺跡が見て取れるようになり、古代環境の解明に繋がる資料を得ることができました。

この報告書が、学術資料としてはもとより文化財保護への理解と認識を深める一助となり、また、生涯学習や教育の場等において幅広く活用されれば幸いです。

最後になりましたが、現地発掘調査や資料整理作業において、宮崎県埋蔵文化財センター、地権者の方々をはじめ、ご支援いただいた関係各位、地元の方々、調査および整理に参加された作業員の方々に、心から感謝の意を表します。

平成19年3月

延岡市教育委員会

教育長 牧野 哲久

例　　言

1. 本書は、携帯電話無線基地局建設に伴い2006年に実施された埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、ボーダフォン株式会社（現Soft Bank）より委託され、延岡市教育委員会が受託して実施した。
3. 発掘調査の期間および調査体制は、第1章 第1・2節のとおりである。
4. 現地調査は、尾方農一、高浦哲が行った。
5. 現地における実測・写真撮影は尾方、高浦が行った。
6. 四面・遺物の整理は延岡市教育委員会で行い、遺物の写真撮影・実測・製図等について
は、高浦が整理作業員の補助を得てこれを行った。
7. 本書の執筆および編集は高浦が行った。
8. 本書における方位は磁北を示し、レベルはすべて海拔高である。
9. 出土遺物および調査記録類は、延岡市教育委員会で保管している。



Fig.1 延岡市位置図

本文目次

第1章 はじめに	
1.はじめに	1
第2章 遺跡の位置と環境	
1.地理的環境	2
第3章 調査の概要	
1.調査区の設定と調査方法	5
第4章 調査の記録	
1.縄文時代の遺構と遺物	8
3.接合資料	14
第5章 まとめ	
1.中世・縄文時代	20
2.先土器時代	20

挿図目次

Fig. 1 延岡市位置図	
Fig. 3 御堂原遺跡(第2次)周辺遺跡分布図	3
Fig. 5 御堂原遺跡(第2次)調査区位図	5
Fig. 7 御堂原遺跡(第2次)出土遺物実測図1	8
Fig. 9 御堂原遺跡(第2次)櫛群実測図	10
Fig.11 御堂原遺跡(第2次)出土遺物実測図2	12
Fig.13 御堂原遺跡(第2次)出土遺物実測図4	14
Fig.15 御堂原遺跡(第2次)接合資料実測図1	17
Fig.17 御堂原遺跡(第2次)接合資料実測図3	19
Fig. 2 御堂原遺跡(第2次)位置図	2
Fig. 4 御堂原遺跡(第2次)周辺地形図	4
Fig. 6 御堂原遺跡(第2次)調査区図及び土層図	6
Fig. 8 御堂原遺跡(第2次)出土遺物分布図(縄文)	9
Fig.10 御堂原遺跡(第2次)出土遺物分布図(先土器)	11
Fig.12 御堂原遺跡(第2次)出土遺物実測図3	13
Fig.14 御堂原遺跡(第2次)接合資料分布図(先土器)	16
Fig.16 御堂原遺跡(第2次)接合資料実測図2	18

表目次

第1表 御堂原遺跡(第2次)出土遺物観察表(縄文)	10
第3表 御堂原遺跡(第2次)抄録	27
第2表 御堂原遺跡(第2次)出土遺物観察表(先土器)	15

写真図版目次

PL. 1 御堂原遺跡(第2次)土層堆積状況	7
PL. 3 御堂原遺跡(第2次)櫛群検出状況	22
PL. 5 御堂原遺跡(第2次)遺物出土状況2	22
PL. 7 御堂原遺跡(第2次)遺物出土状況4	22
PL. 9 御堂原遺跡(第2次)出土遺物2	23
PL.11 御堂原遺跡(第2次)接合資料2	25
PL. 2 御堂原遺跡(第2次)調査風景	22
PL. 4 御堂原遺跡(第2次)遺物出土状況1	22
PL. 6 御堂原遺跡(第2次)遺物出土状況3	22
PL. 8 御堂原遺跡(第2次)出土遺物1	23
PL.10 御堂原遺跡(第2次)接合資料1	24
PL.12 御堂原遺跡(第2次)接合資料3	26

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

携帯電話は、通信技術や半導体技術の急速な発展に伴って、現在の私たちの生活において欠かすことのできない存在となっている。

このように爆發的に普及した携帯電話であるが、「通話エリア」が限定されその性質上必要不可欠なものが携帯電話基地局である。現在、いつでもどこでもを目的とし通話エリアの拡大を図って、数多くの基地局の建設が行われている。

今回、基地局建設予定地として市西部端に位置する岡元町に計画された。ここは、御堂原遺跡の包蔵地にあたることから、ボーダフォン株式会社（現 Soft Bank）と協議を行い、平成18年3月6日～同年3月16日にかけて確認調査を実施した。

その結果、建設予定地内に埋蔵文化財が確認されたため、その取扱について協議を行ったが計画変更は不可能との見解に達したため、平成18年5月10日付けで御堂原遺跡埋蔵文化財発掘調査委託契約及び協定書を取り交わし、基地局建設予定地の本調査を行い記録保存措置をとることとなった。

発掘調査は鉄塔建設予定地の約55m²を対象とし、平成18年5月18日～同年6月16日の期間で実施した。

第2節 調査の組織

御堂原遺跡（第2次）の調査組織は次の通りである。

調査主体 延岡市教育委員会

教育長	牧野 哲久
-----	-------

教育部長	山良 公明
------	-------

文化課長	渡邊 博史
------	-------

主幹兼課長補佐兼文化財係長	九鬼 魁
---------------	------

副主幹兼文化振興係長	黒木 育朗
------------	-------

庶務担当 主任主事	松岡 直子
-----------	-------

調査担当 主任主事	尾方 農一
-----------	-------

主任主事	高浦 哲
------	------

調査指導・協力 延岡市教育委員会 山田 聰

延岡市教育委員会 尾方 農一

延岡市教育委員会（旧北方町） 小野 信彦

調査作業員 甲斐 カツキ、甲斐 正子、甲斐 理司、甲斐 三千代、甲斐 如高、川野 尚子、酒井 清子、白石 良子、中川 文夫、林田 裕子、山本 千穂

整理作業員 敷石 サヨ子、藤本 千鳥、山本 敬子

調査の過程においては、土地所有者である後藤 文夫 氏に便宜を図っていただいた。また、調査区に隣接する地権者の方々にも御協力いただいた。記して感謝します。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

御堂原遺跡の所在する延岡市は、平成18年2月20日に西境の北方町、北境の北浦町を編入合併し東経 $131^{\circ} 39' 46''$ 、北緯 $32^{\circ} 34' 56''$ で宮崎県の最北部に位置し、北は北川町、大分県、南は門川町、西は日之影町と境を接し、東は日向灘に面している。市域は東西47.60km、南北39.96km、面積588.05km²を占めている。北は600m～700m級の鏡山・可愛岳等の山々が、西は800m～1,200m級の行蹠山・桧山・櫻峠等の山々が、南は300～360m級の遠見山・烏帽子岳等の山々が連なっている。

市東部は海岸線で、北に日豊海岸国定公園に指定されているリアス式海岸が広がり、中部には、県指定天然記念物のアカウミガメが産卵のため上陸する長い砂浜が広がっている。南部は、日向灘に向かって小半島が突き出し、リアス式海岸を形成している。市の北と西から流れ込む北川・祝川・五ヶ瀬川・大瀬川・沖田川の下流域に延岡平野が広がっている。

遺跡の所在する丘陵は、旧北方町との境界にあたり、合併前の市の最西部に位置する。標高約460mを頂とする霧子山から南に派生し、それは五ヶ瀬川北岸に達する。

御堂原遺跡はその丘陵最南端の台地上にあたり、ゆるやかな南斜面に位置する。南には国道218号線と現在廃止されている高千穂鉄道、五ヶ瀬川が東西に走っている。調査前は果樹園であった。



Fig.2 御堂原遺跡（第2次）位置図 (1/50,000)

第2節 周辺遺跡と歴史的環境

御堂原遺跡の所在する岡元町では、踏査により埋蔵文化財保蔵地として取り扱われる箇所が幾つがあるが、これまで本格的な発掘調査が行われていないため詳細は不明である。しかし、周辺にあたる五ヶ瀬川北岸の舞野町、細見町、小川町、旧北方町曾木には先土器時代～中近と幅広い時代の遺跡が所在している。

舞野町所在の赤木遺跡は1985年ナイフ形石器を中心とする赤木第1文化層、細石器を中心とする赤木第2文化層の2つの文化層が確認された調査を皮切りに、1994年には赤木遺跡第2次調査として、所在する国指定南方古墳群第21・22号墳の範囲確認調査が行われ、21号墳の周溝が確認されている。近年では、一般国道218号北方延岡道路建設に伴う発掘調査が実施され、先土器時代を中心とする遺構・遺物が数多く検出されている。

細見町所在の中尾原遺跡は1989～1991年にかけて県営圃場整備事業に伴う発掘調査が実施され、複合遺跡であることが判明している。ここでは県北では最大規模となる弥生時代から古墳時代にかけての竪穴住居62軒をはじめ、縄文時代から古墳時代の土壙群が検出されている。出土遺物も弥生時代から古墳時代にかけての良好な遺物が数多く出土している。細見川を挟み中尾原遺跡の対岸には黒土田遺跡（1994～1995年調査）が所在する。先土器時代～古墳時代後期の遺跡で、弥生時代終末～古墳時代初頭の住居跡2軒、古墳時代後期の円墳周溝1基等の遺構を検出している。

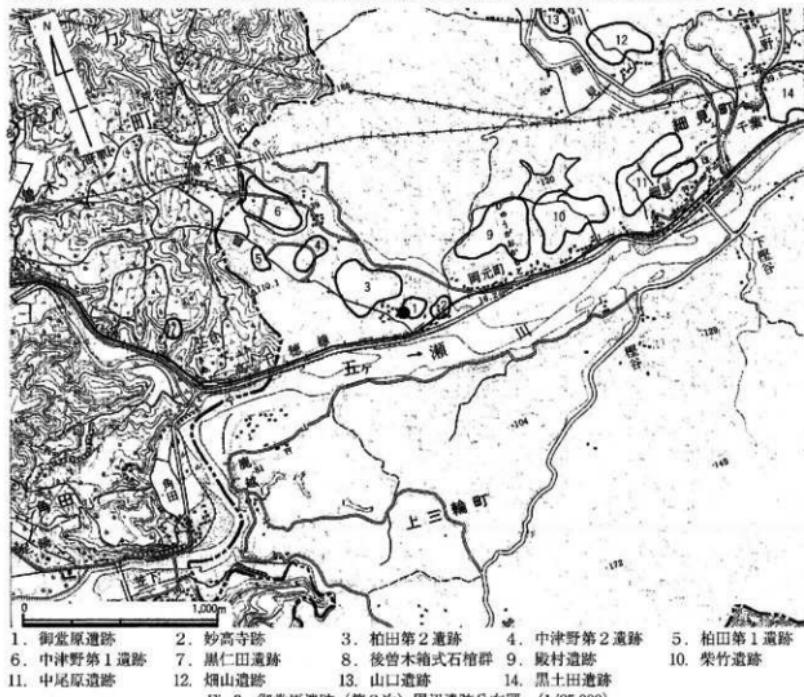


Fig.3 御堂原遺跡（第2次）周辺遺跡分布図（1/25,000）

細見町に西接する小川町所在の山口遺跡（1990年）、畠山遺跡（1991～1992年）は同じく県営圃場整備事業に伴う発掘調査が実施されている。山口遺跡では、中世の掘立柱建物跡3棟等の遺構や遺構は乏しいが古墳時代の良好な遺物が出土している。畠山遺跡では先土器時代～中世にかけての遺構・

遺物が確認されている。十数棟の掘立柱建物跡、弥生時代後期後半～古墳時代初頭の住居跡5軒、縄文晩期の方形住居跡1軒等の遺構が検出されている。

岡元町から西に位置する、旧北方町曾木には県指定後曾木箱式石棺群が所在している。もともと露出していた2基の石棺を1937年に指定したものである。その後、1962年に果樹園造成により4基の石棺が発見されたが、無惨にも破壊されてしまった。ここには少なくとも6基の石棺が所在していたと考えられる。この他、曾木黒仁田遺跡では、一般国道218号北方延岡道路建設に伴う発掘調査が実施されており、その成果が期待される。

このように、岡元町周辺ではこれまで数多くの調査が実施され、多期多様な遺跡の所在が明らかとなっている。そのような背景をふまえ、同地での本格的な調査には大きな期待が寄せられることとなった。

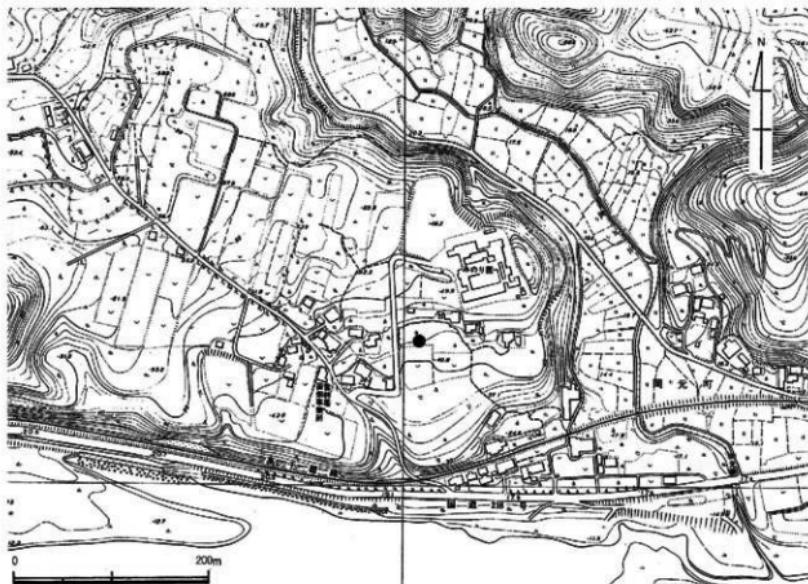


Fig.4 御堂原遺跡（第2次）周辺地形図（1／5,000）

第3章 調査の概要

第1節 調査区の設定と調査方法 (Fig.5)

御堂原遺跡は事前の確認調査で、先土器から縄文時代の遺物が確認されている。調査前は、果樹園として活用されており、造成により平坦面を呈していた。調査は、調査面積が狭少であるため詳細なグリッドは設定せず、重機により表土を除去した後は、人力で面的に掘り下げる方法を採用了た。

調査は、②層および③層上面で縄文時代以降の遺構・遺物の精査を行ったが検出には至らなかつた。その後は、④、⑤、⑥層と順をおって精査し、出土遺物は各層位ごとに平板測量で1/50の図面に記録した。また、検出した遺構は1/20の図面に別記記録した。

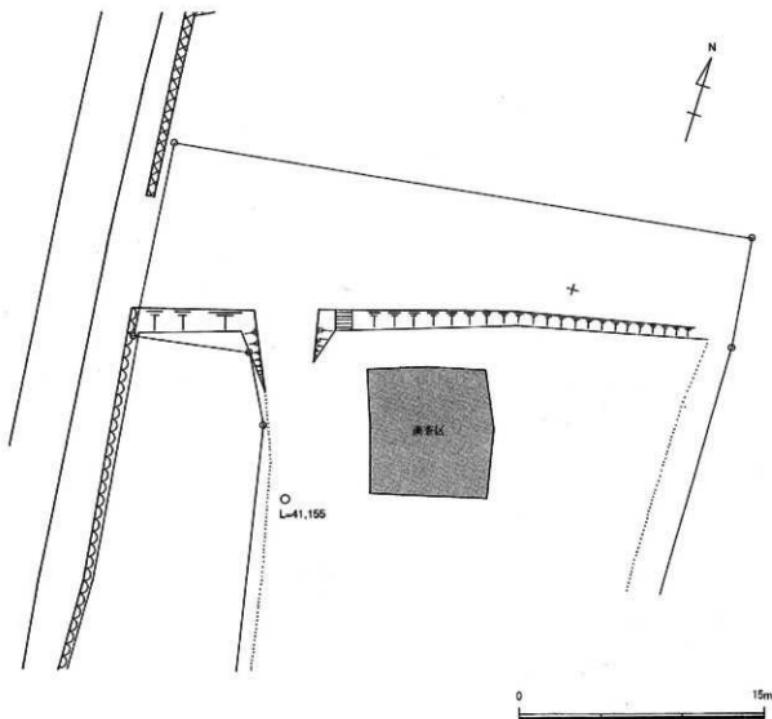


Fig.5 御堂原遺跡（第2次）調査区位置図 (1 / 300)

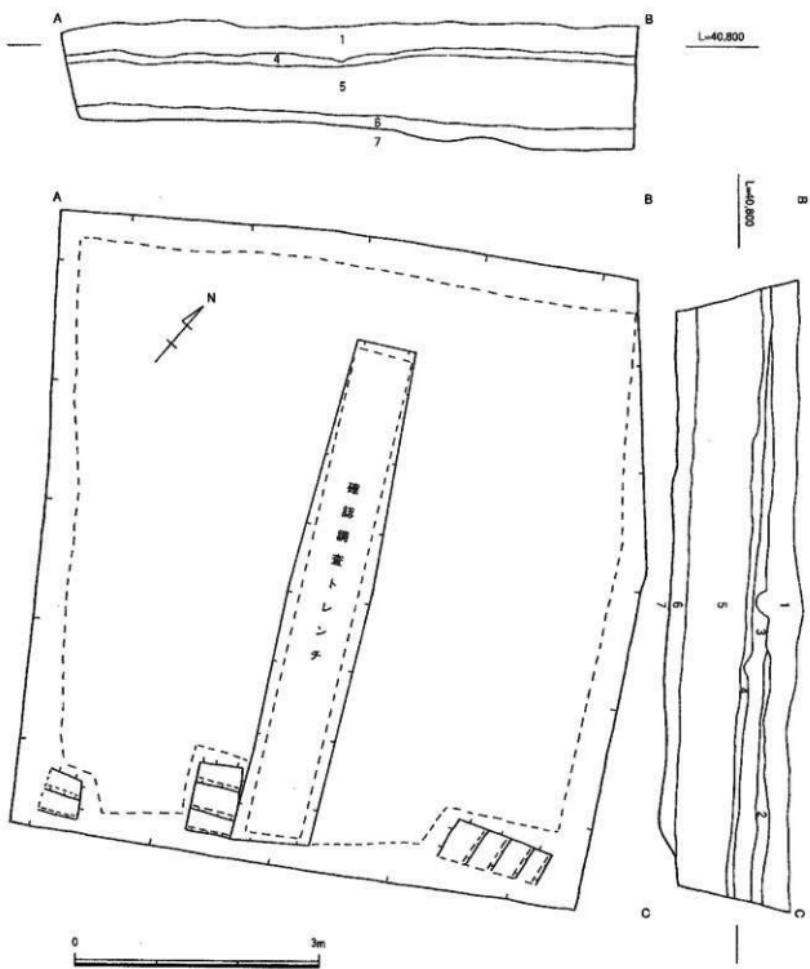


Fig.6 御堂原遺跡（第2次）調査区図及び土層図（1／60）

第2節 遺跡の層位 (Fig.6)

御堂原遺跡で確認された層序は概ね9層が認められた。基本層序は以下のとおりである。

- ①層（表土）耕作土。調査前は果樹園として利用。
 - ②層（黄褐色土）アカホヤ火山灰層。樹木の根、開墾により一部消失。
 - ③層（黒褐色土）やや粘質。
 - ④層（暗褐色粘質土）⑤層への漸移層。
 - ⑤層（茶褐色土）粘性を持つ。褐色ローム層。
 - ⑥層（黄褐色土）⑦層への漸移層。
 - ⑦層（黄褐色土）やや粘質。阿蘇火山灰。
 - ⑧層（レキ層）河岸段丘レキ。
 - ⑨層（暗赤褐色岩）阿蘇溶結凝灰岩。
- ②層～④層で縄文時代の遺物が、⑤～⑥層下面より、先土器時代の遺構・遺物が出土している。



Pl.1 御堂原遺跡（第2次）土層堆積状況

第4章 調査の記録

第1節 繩文時代の遺構と遺物

(1) 確認・本調査概要

確認調査では、建設予定地に $6.3\text{ m} \times 1.0\text{ m}$ のトレーニングを設定し、土層観察と遺構・遺物の検出に主眼をおき実施した。その結果、②から④層にかけて3点の石器が出土した。残念ながら遺構は検出されなかった。

本調査では、確認調査の結果を踏まえ、②から④層を面的に精査を行ったが確認調査と同様で、遺構の検出には至らなかった。遺物は石器3点が出土している。

(2) 出土遺物 (Fig.8)

確認調査で3点（1点は擾乱土中）、本調査で3点の計6点の石器が出土している。

使用痕剥片 (Fig.7)

6 流紋岩を素材とする。下縁に微細剥離痕が認められる。剥片素材の鋭利な部分を使用したのであろう。

石斧 (Fig.7)

8 レキ岩を素材とする。レキ面を残し主要剥離面より加工を施し刃部を形成している。

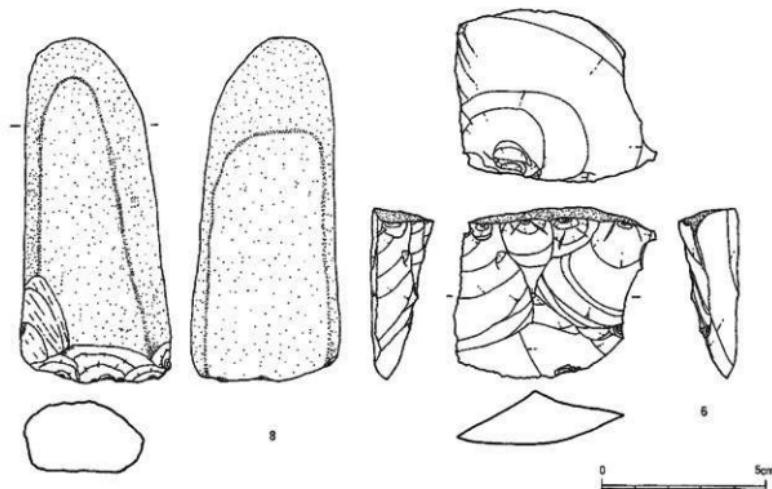


Fig.7 御堂原遺跡（第2次）出土遺物実測図 1 (2／3)

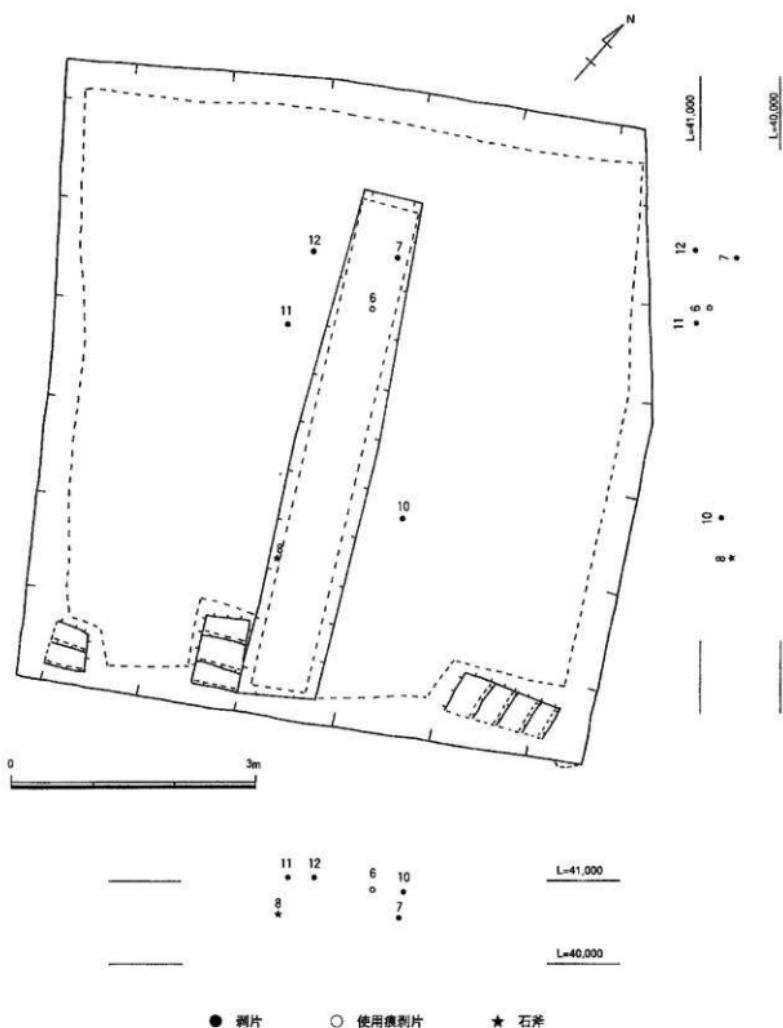


Fig.8 御堂原遺跡（第2次）出土遺物分布図（縮文）(1/60)

No	層	器種	石材	海拔高	最長	最幅	最厚	重量(g)	接合	圓面	備考
7	カクラン	剥片	鶴見黒曜石	40.558	2.6	1.5	1.0	3.1			確認調査
6	④	使用痕剥片	流紋岩	40.947	5.2	6.0	1.8	47.5			実測 確認調査
8	④	石斧	砂岩	40.630	10.5	4.4	2.1	117.5			実測 確認調査
10	④	剥片	ホルンブリルス	40.890	6.0	4.0	0.5	48.6			本調査
11	④	剥片	流紋岩	41.073	9.2	4.7	2.1	79.5			本調査
12	④	剥片	流紋岩	41.072	4.1	3.9	1.2	15.4			本調査

第1表 御堂原遺跡（第2次）出土遺物観察表（縦文）

第2節 先土器時代の遺構と遺物

(1) 確認・本調査概要

確認調査では、⑤から⑥層にかけて6点の石器が出土した。残念ながら遺構は検出されなかった。

本調査では、確認調査の結果を踏まえ、⑤から⑥層を面的に精査を行った。調査区は概ね南東に向かい緩やかな傾斜を呈していた。

調査の結果、⑥層上面を基底面とするでレキ群を検出した。レキは20～10cm程度の拳大程の砂岩礫を主としており、表面は赤面化していたが、基底面等に焼土の痕跡は認められなかった。

遺物は、確認調査と同様で⑤から⑥層にかけて36点の石器が出土した。

(2) 検出遺構 (Fig.9,10)

調査区南西端で礫群を検出した。⑥層上位を基底面としており、遺構に伴う掘り込みの痕跡は認められなかった。構成する礫は10～15cm程度の拳大程の砂岩礫を主としている。礫表面は赤変化していたが、基底面等に焼土の痕跡は確認できなかった。



(3) 出土遺物 (Fig.10)

確認調査で6点、本調査で36点の合計42点の石器を取り上げている。

出土状況としては、特異に集中する地点は認められず、調査区内に散逸して見られる。層序別では、⑤層21点、⑥層15点が出土しており、⑤層からやや多く出土している。



Fig.9 御堂原遺跡（第2次）礫群実測図（1/30）

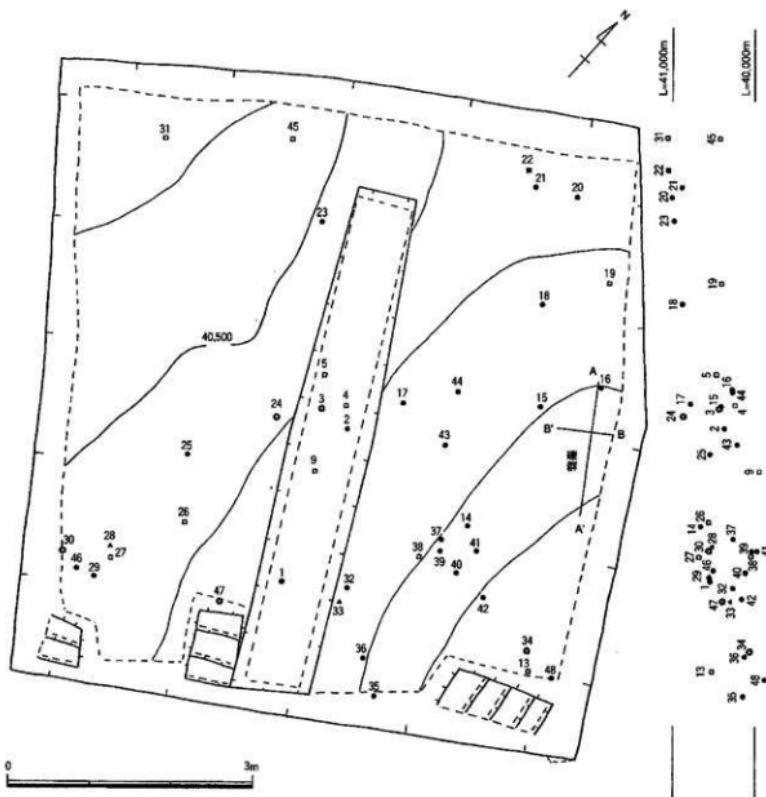
剥片尖頭器 (Fig.11)

剥片尖頭器は2点を数え、いずれも流紋岩製である。

調査区の南端より1点、南東端より1点が⑤層土中より出土している。ここではすべてを図示した。

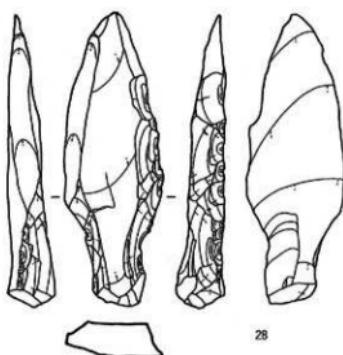
28 縦長の剥片を素材とし、基部および右側縁に主要剥離面より加工が施されている。打面を残している。若干の使用痕が認められることからナイフ的な要素も考えられる。

33 非常に幅広な縦長の剥片を素材としているためか大型である。基部にのみ主要剥離面より加工が施されている。使用痕よりナイフ的な要素が強い。

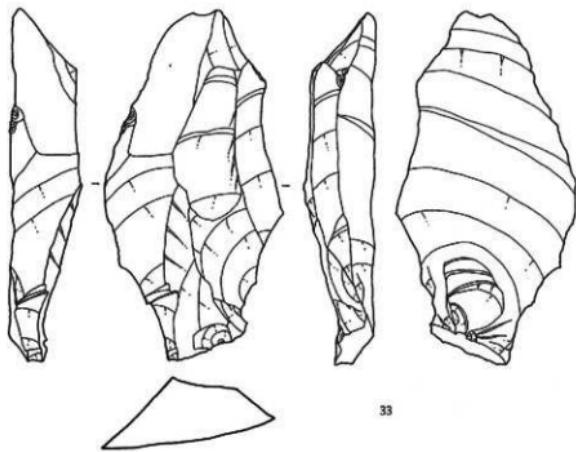


□ レキ ● 剣片 ▲ 刀片尖頭器 ■ 二次加工剣片 ◎ 残鉄

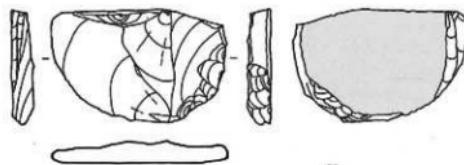
Fig.10 御堂原遺跡（第2次）出土遺物分布図（先土器）(1 / 60)



28



33



22

0 5cm

Fig.11 御堂原遺跡（第2次）出土遺物実測図2 (2／3)

二次加工剥片 (Fig.11)

二次加工を有する剥片は、唯一 1 点が出土している。頁岩製である。調査区の北東端の⑤層土中より出土している。

22 頁岩製。レキ面を有する剥片を素材としている。剥片剥離により薄くなった素材を、レキ面より加工を加え刃部形成している。使用痕も認められることから、ナイフ的要素が強い。

残核 (Fig.12)

残核 5 点が出土している。⑤層より 2 点、⑥層より 3 点が出土している。そのうち 3 点は接合資料となっている。石材は⑤層出土のものがすべて頁岩製で、⑥層出土のものがすべて流紋岩製となっている。調査区の中央、北端、東端で出土している。

ここではそのうち 1 点を図示した。また、3.47 は接合資料で図示している。

30 頁岩でレキ面を残す。一部打面を残す。縦長の剥片を剥離させた痕跡が認められる。

剥片 (Fig.13)

剥片は 27 点が出土している。⑤層より 14 点、⑥層より 13 点が出土している。石材は、流紋岩、頁岩、砂岩、レキ岩、ホルンフェルスと様々で、調査区の北東側より多く出土した。

ここでは 2 点のみ図示した。

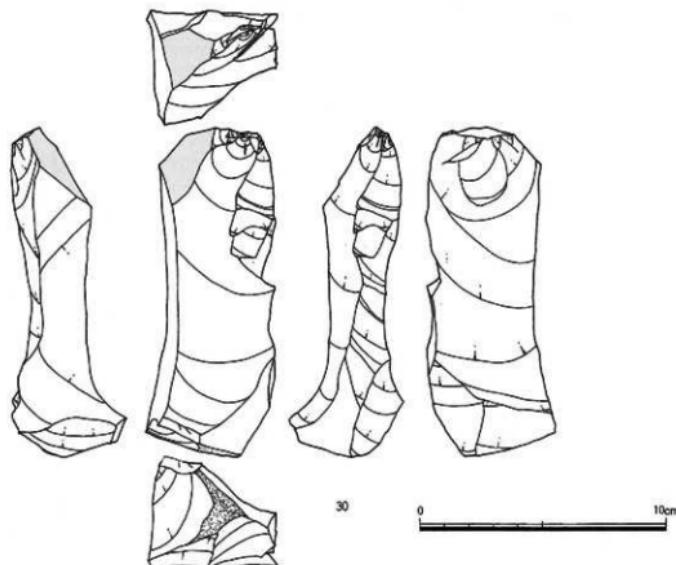


Fig.12 御堂原遺跡（第2次）出土遺物実測図 3 (1 / 2)

- 18 流紋岩の横長の剥片である。レキ面の窪んだ箇所を打面として剥片剥離を行っている。
- 35 流紋岩の縦長の剥片である。打面を形成し剥片剥離を行っている。

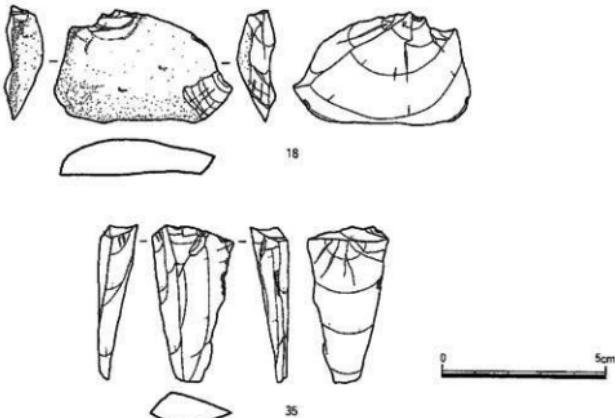


Fig.13 御堂原遺跡（第2次）出土遺物実測図4（2／3）

第3節 接合資料

(1) 接合状況 (Fig.14)

御堂原遺跡では4個体の接合資料が得られた。資料の点数としては、13点を数える。調査では42点の出土遺物を得ているが、そのうち約30%が接合していることとなり、調査面積が狭い割に良好な接合状態が伺える。

個別でみると、2点接合が1個体、3点接合が1個体、4点接合が2個体であり、接合は、⑤、⑥と層位間で接合状況が見られる。

ここでは、2接合資料1個体、3点接合資料1個体、4点接合1個体の3資料、石器点数9点を図示する。ただし、接合素材資料は主要なもののみ図示した。

また、接合資料分布図は、先土器時代の層位一括で図示した。

① 2点接合 (Fig.15)

平面にレキ面を多く残している流紋岩。残核(47)と剥片(29)の接合資料である。荒削後の石核に打面を形成し、やや肉厚の剥片(29)を作出している。剥片には、主要剥離面からの刃部形成の様な痕跡がみれる。スクレイパー未製品もしくは二次加工剥片の可能性がある。残った石核(47)からは、横長の剥片を作出した痕跡が見られる。

② 3点接合 (Fig.16)

一部にレキ面を残す流紋岩で、剥片3点の接合資料。3点とも大型の剥片である。打面を形成後に(39)+(43)+(48)の縦長の大型剥片を剥離させている。その後、打面を回転させ横長の剥片(43)を剥離している。最後に(43)の主要剥離面を打面として、同じく横長の剥片(48)を剥離している。

③ 4点接合 (Fig.17)

平面にレキ面を多く残している流紋岩。残核(3)と剥片3点の接合資料。接合状況や残核(3)から、レキ面を打面とし剥片剥離が行われていることが伺える。(2)もその課程の一つで、レキ面から加熱を加え剥離されている。

No	層	種類	石材	海拔高	最長	最幅	最厚	重量(g)	接合	圓面	備考
1	⑤	剥片	頁岩	40.523	1.2	1.2	0.2	0.2			確認調査
13	⑤	レキ	チャート	40.520	5.1	3.5	2.2	42.4			本調査
14	⑤	剥片	頁岩	40.668	5.8	3.7	1.6	47.7			本調査
15	⑤	剥片	流紋岩	40.415	8.5	8.5	2.5	3.7	34, 37, 40		本調査
16	⑤	剥片	流紋岩	40.280	5.5	4.0	1.1	22.1			本調査
17	⑤	剥片	流紋岩	40.798	4.0	3.6	0.8	7.9			本調査
18	⑤	剥片	流紋岩	40.914	3.8	5.3	1.0	22.6			実測 本調査
19	⑤	レキ	頁岩	40.400	3.6	3.2	2.3	34.5			本調査
20	⑤	剥片	砂岩	41.034	3.3	6.4	1.5	50.1			本調査
21	⑤	剥片	流紋岩	40.905	4.9	3.0	0.5	10.1			本調査
22	⑤	二次加工剥片	頁岩	41.067	5.4	3.5	0.6	17.7			実測 本調査
23	⑤	剥片	頁岩	41.006	4.6	4.5	1.3	17.1			本調査
24	⑤	残核	頁岩	40.880	7.0	5.2	3.9	146.4			本調査
25	⑤	剥片	砂岩	40.560	5.4	2.3	1.3	13.6			本調査
26	⑤	剥片	レキ岩	40.568	13.6	8.9	7.1	1.2			本調査
27	⑤	剥片	砂岩	40.585	12.7	9.7	7.0	1200.0			本調査
28	⑤	剥片尖頭器	流紋岩	40.520	8.9	3.1	1.4	32.9			本調査
29	⑤	剥片	流紋岩	40.518	6.1	6.3	2.5	70.1	47	実測	本調査
30	⑤	残核	頁岩	40.560	13.5	5.2	3.1	250.0			実測 本調査
31	⑤	レキ	レキ岩	41.082	16.5	13.5	9.5	2300.0			本調査
32	⑤	剥片	流紋岩	40.268	6.7	4.6	2.3	82.5			本調査
33	⑤	剥片尖頭器	流紋岩	40.270	10.7	5.5	2.2	94.2			本調査
2	⑥	剥片	流紋岩	40.378	9.0	4.5	1.8	64.1	3, 42, 44		確認調査
3	⑥	残核	流紋岩	40.427	9.9	6.2	6.8	377.1	2, 42, 44	実測	確認調査
4	⑥	レキ	砂岩	40.235	6.0	5.0	2.1	64.5			確認調査
5	⑥	レキ	流紋岩	40.477	12.1	5.6	5.7	562.8			確認調査
9	⑥	レキ	砂岩	39.940	7.2	5.0	2.7	145.5			確認調査
34	⑥	残核	流紋岩	40.055	6.5	6.9	3.5	200.4	15, 37, 40		本調査
35	⑥	剥片	流紋岩	40.145	4.9	2.5	0.8	8.3			実測 本調査
36	⑥	剥片	流紋岩	40.120	2.8	1.8	0.5	2.7			本調査
37	⑥	剥片	流紋岩	40.258	7.2	4.0	4.5	134.8	15, 34, 40		本調査
38	⑥	レキ	頁岩	40.638	7.9	7.2	2.2	147.5			本調査
39	⑥	剥片	流紋岩	40.635	13.5	7.1	3.1	194.1	43, 45	実測	本調査
40	⑥	剥片	流紋岩	40.190	4.8	2.9	2.3	129.8	15, 37, 34		本調査
41	⑥	剥片	流紋岩	39.976	4.5	4.5	1.9	23.8			本調査
42	⑥	剥片	流紋岩	40.165	5.5	5.2	2.3	67.9	2, 3, 44		本調査
43	⑥	剥片	流紋岩	40.217	9.3	4.2	2.1	72.3	39, 48		本調査
44	⑥	剥片	流紋岩	40.265	6.3	4.9	2.5	73.5	2, 3, 42		本調査
45	⑥	剥片	頁岩	40.424	3.9	5.7	2.5	52.9			本調査
46	⑥	剥片	ホルンフェルス	40.506	5.4	3.3	1.3	20.6			本調査
47	⑥	残核	流紋岩	40.415	9.1	7.2	4.6	324.4	29	実測	本調査
48	⑥	剥片	流紋岩	39.880	10.3	3.4	2.3	64.7	39, 43	実測	本調査

第2表 御堂原遺跡(第2次)出土遺物観察表(先土器)

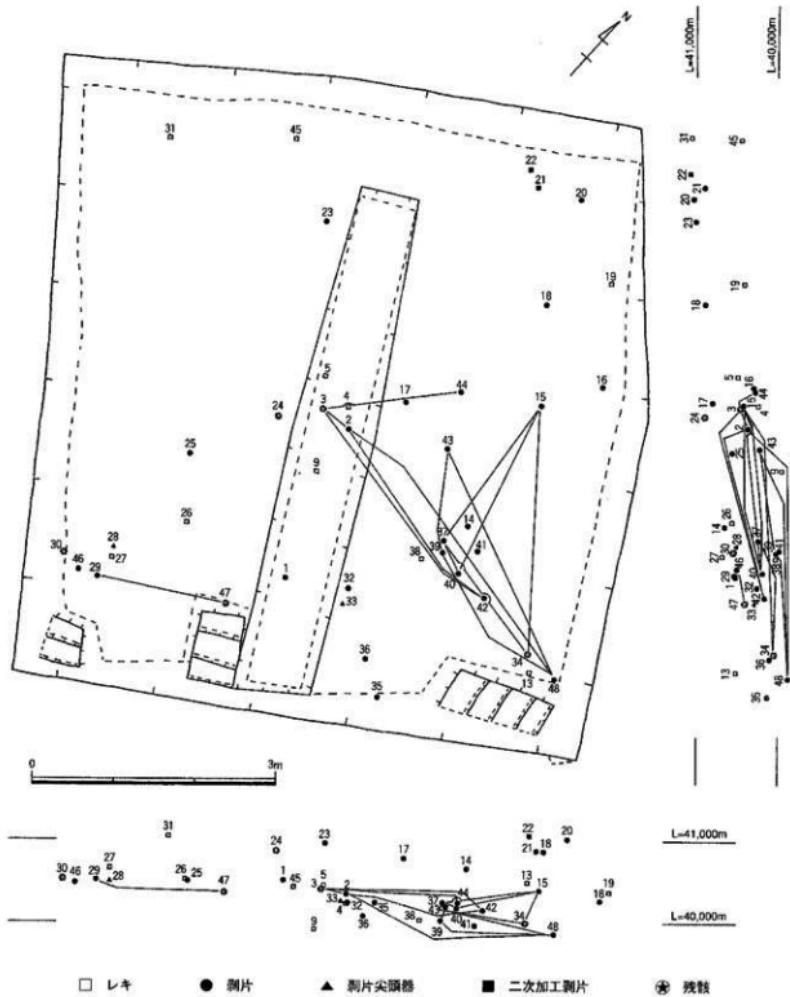


Fig.14 御堂原遺跡（第2次）接合資料分布図（先土器）(1 / 60)

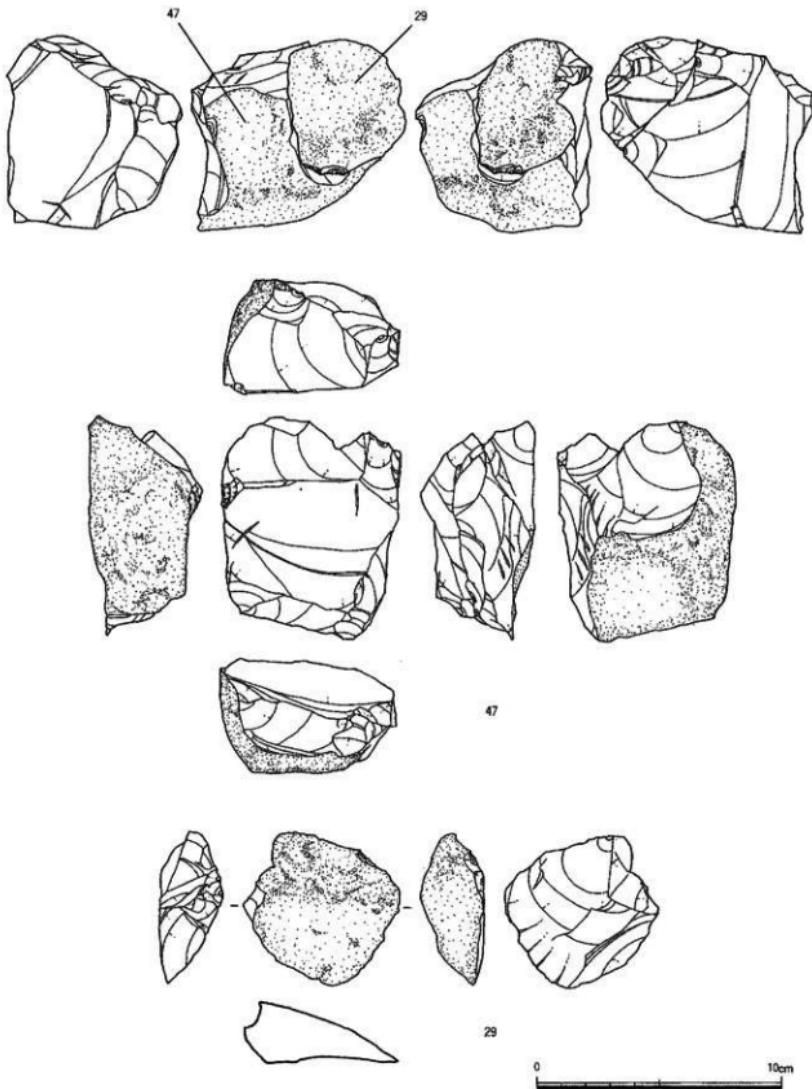


Fig.15 御堂原遺跡（第2次）接合資料実測図1 (1 / 2)

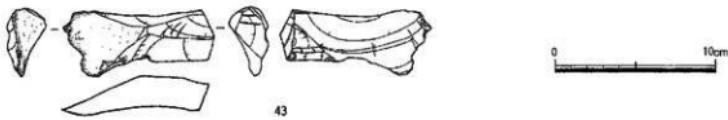
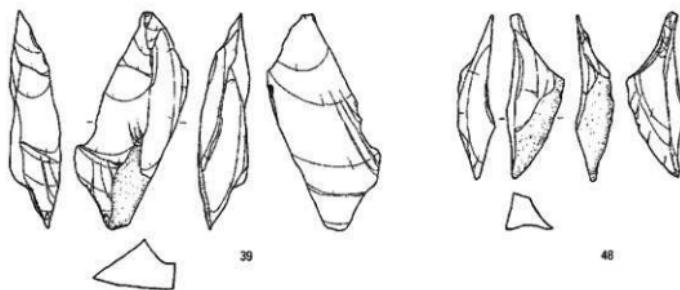
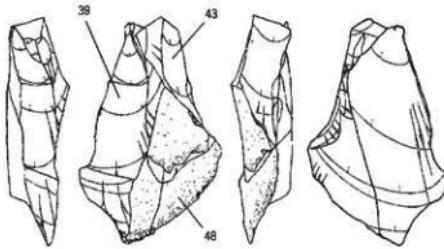


Fig.16 御堂原遺跡（第2次）接合資料実測図2 (1/3)

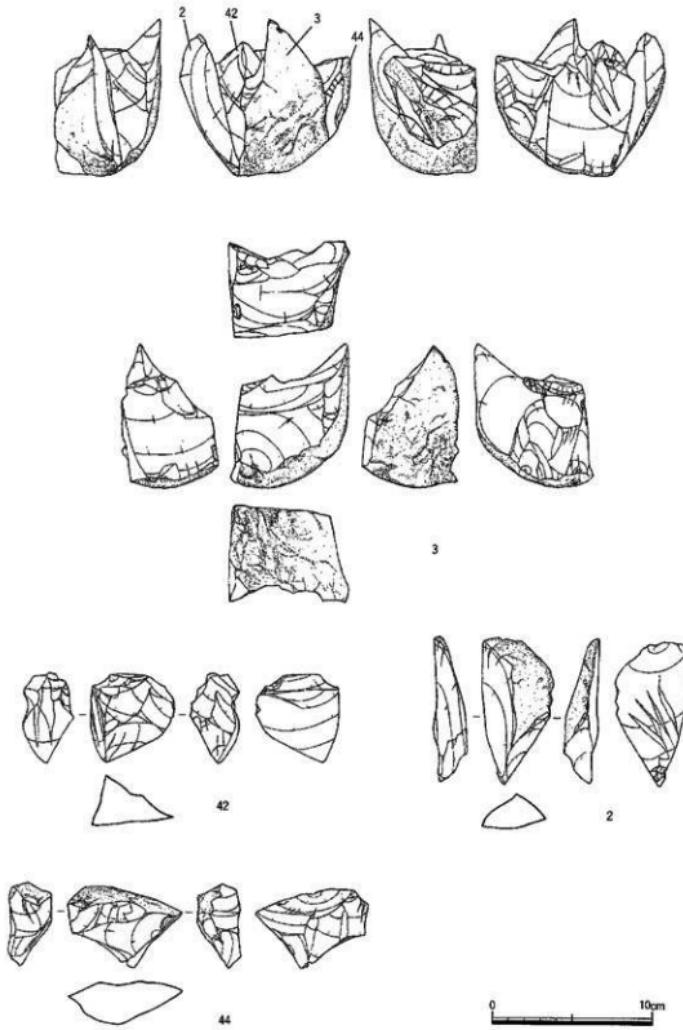


Fig.17 御堂原遺跡（第2次）接合資料実測図3 (1 / 3)

第5章 まとめ

御堂原遺跡は、五ヶ瀬川流域の左岸の丘陵上に立地しており、中世の埋蔵文化財包蔵地として取り扱われていたが、今回の調査結果から良好な先土器時代の遺跡の一つとして位置付けられることが明らかとなった。調査地を含む岡元町は今回が初となる本調査であるが、今後の周辺開発に際し協議・検討する良好な資料が得られたこととともに、充分な調整が必要な地域となった。

延岡市内にある五ヶ瀬川流域の代表的な先土器時代の遺跡としては、片田遺跡、吉野遺跡、地蔵ヶ森遺跡、赤木遺跡、旧北方町の笠下遺跡、岩土原遺跡、上崎遺跡、矢野原遺跡などが挙げられるが、唯一飛び地であった岡元町が加わることで、五ヶ瀬川流域の一連の先土器時代の遺跡が見て取れるようになったと言える。

さて、今回の調査であるが調査面積や出土遺物は僅少であるが、可能な限りの考察を行いたいと思う。

中世・縄文時代

延岡市遺跡分布調査では、中世の包蔵地として取り扱われてきた。これは近隣に建立されていたとされる妙高寺の寺院域が未確定であったことから、伝承をもって包蔵地として取り扱ってきたためであるが、今回の調査ではその詳細を把握することはできなかった。調査地は果樹園造成による削平が行われたため消失してしまったとも考えられるが、今後の周辺の調査に期待せざるをえない。

また、確認・本調査で得た縄文時代の遺物についてであるが、今回の調査でも微量の遺物出土に留まり、また造構の存在も把握できなかった。調査面積の狭少のため今回は掘むことはできなかつたと考えられるが、本市特有の良好な縄文時代の包含層が確認されたことから、今後の周辺の調査に期待したい。

先土器時代

確認調査を含め42点の石器が出土している。調査面積の狭少や出土状況からブロックとして捉えることはできないが、石器の接合状況や礫群の存在から、調査区南東での石器製作状況が見られ一定の生活痕が伺える。しかしながら、石器の製作痕（チップ）やツールの存在が希薄なことから、キャンプ的な短期間に考えるのが妥当であろう。

さて、御堂原遺跡の特筆すべき点であるが、まず、残核が多く、それに接合する資料が多いことが挙げられる。資料点数のうち接合する石器が約30%を占め非常に良好である。しかし、石器製作により生じるであろうチップが出土していないことに疑問が残る。調査範囲が狭少なため確認されていないが、細かな作業場が周囲に存在するのであろうか。

また、接合資料から石器の剥離状況をみると、礫面から加刷し剥離させ、打面を形成しようとしている状況が伺えるが、その後の剥片剥離状況をみると、非常に雑な作業状況が伺える。石器（剥片）も非常に大型であり、これは、眼下を流れる五ヶ瀬川や河岸段丘礫からの豊富な石材資料が得られたため、雑な石器製作が行われていたのではないかと考えられる。

次に層位による接合状況をみると⑤・⑥層と接合しており、⑤層と⑥層において時期差はないと考えて良いだろう。

次に、本遺跡の層位であるが縄文時代の層と位置づけた④層が、赤木遺跡では細石器文化層と捉えられており、本市では先土器時代から縄文時代への移行期にあたると考えてられている。今回は

石斧が出土したことから縄文時代の包含層と位置づけたが、その層の取扱いには今後十分な検証が必要であろう。

今回良好な先土器時代の遺跡として認識させてくれた御堂原遺跡であるが、鍵層となる A T 層（姶良丹沢火山灰）が堆積していないため A T 下位の石器の出土がなされなかた。調査地を含む南方地区は良好な A T 層が確認されることから、今回の調査地にのみ堆積がなかったと考えられ、今後、さらに周辺での調査事例が増加すると、御堂原遺跡の様相が顕著に見られてくるであろうとともに、五ヶ瀬川流域の先土器時代の比較検討がさらに必要となるであろう。

最後になりますが、今回の調査にあたり地権者をはじめ開発者であるボーダフォン株式会社（現 soft bank）には協議段階からご理解・ご協力を、また、周辺住民にはご迷惑をおかけしました。改めて感謝いたします。

【参考文献】

『赤木遺跡』延岡市文化財調査報告書(企) 延岡市教育委員会 1987

『片山遺跡』延岡市文化財調査報告書第5集 延岡市教育委員会 1990

『笠下遺跡』北方町文化財報告書1 北方町教育委員会 1990

『宮崎県史 資料編 考古 2』宮崎県 1993

『上南方地区遺跡』延岡市文化財調査報告書第11集 延岡市教育委員会 1994

『赤木遺跡第2地点』延岡市文化財調査報告書第13集 延岡市教育委員会 1995

『打扇・早日渡・矢野原・藏田遺跡』

一般国道 218 号椎畠バイパス建設に伴う埋蔵文化財調査報告書 宮崎県教育委員会 1995

『平成13年度 市内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』

延岡市文化財調査報告書第25集 延岡市教育委員会 2003



PL.2 御堂原遺跡（第2次）調査風景



PL.3 御堂原遺跡（第2次）礫群検出状況



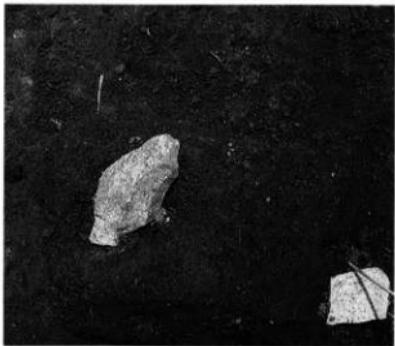
PL.4 御堂原遺跡（第2次）遺物出土状況 1



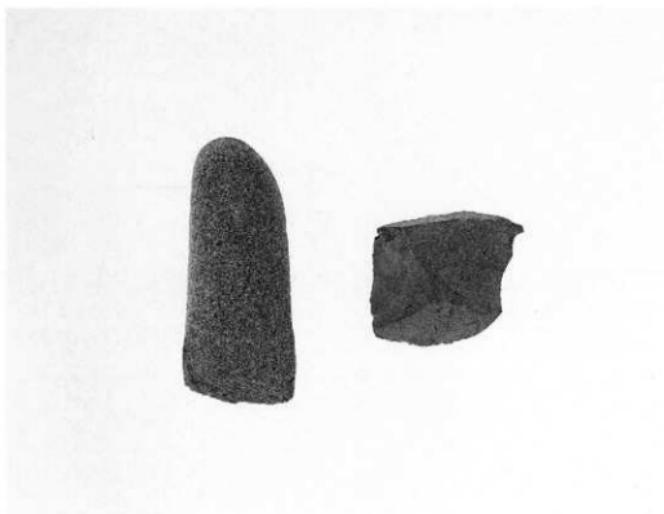
PL.5 御堂原遺跡（第2次）遺物出土状況 2



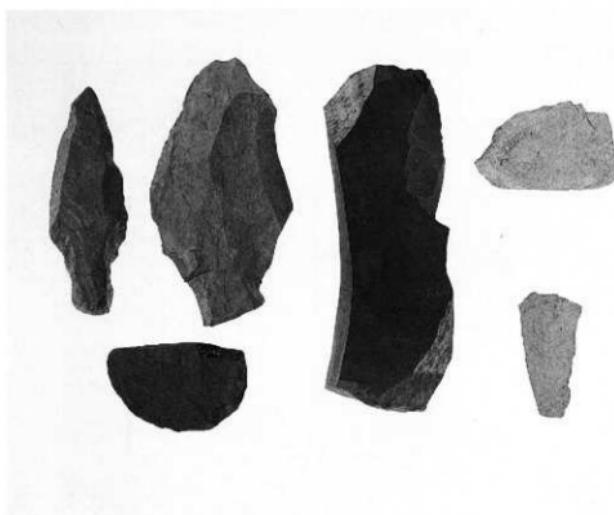
PL.6 御堂原遺跡（第2次）遺物出土状況 3



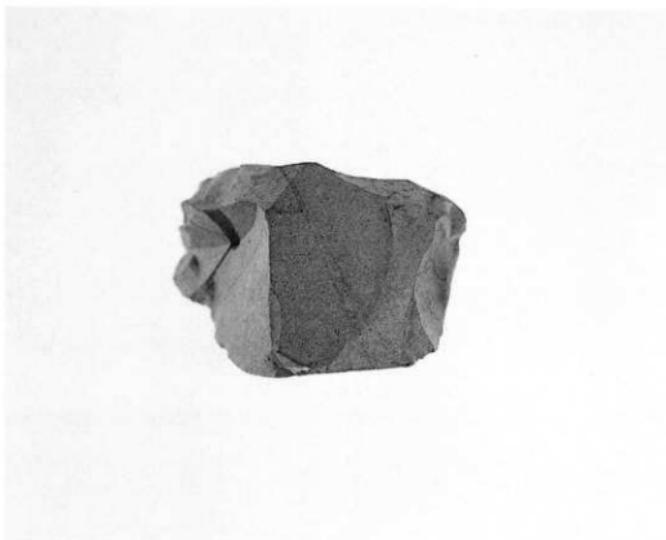
PL.7 御堂原遺跡（第2次）遺物出土状況 4



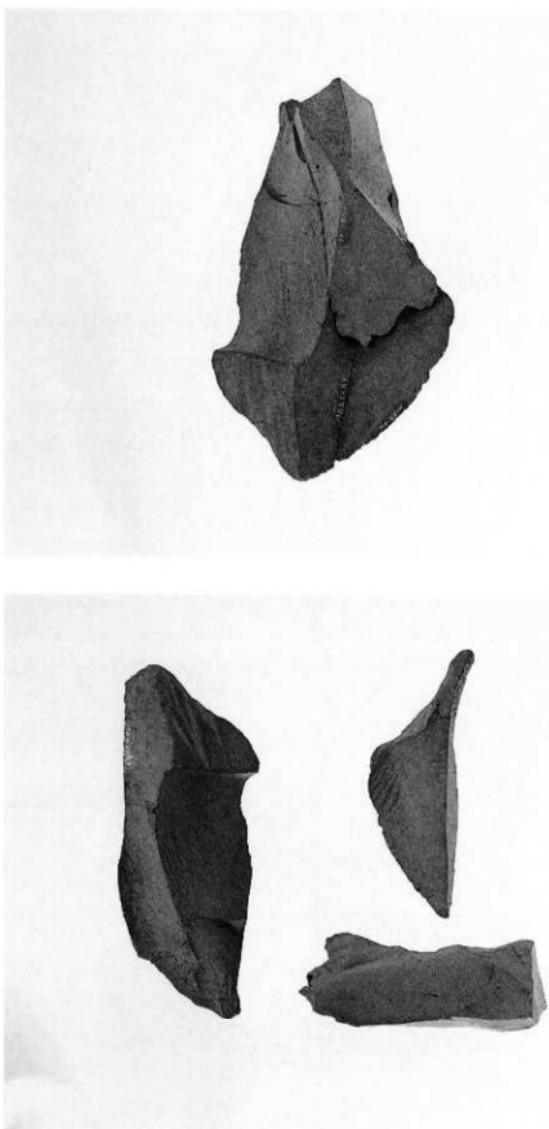
PL.8 御堂原遺跡（第2次）出土遺物 1



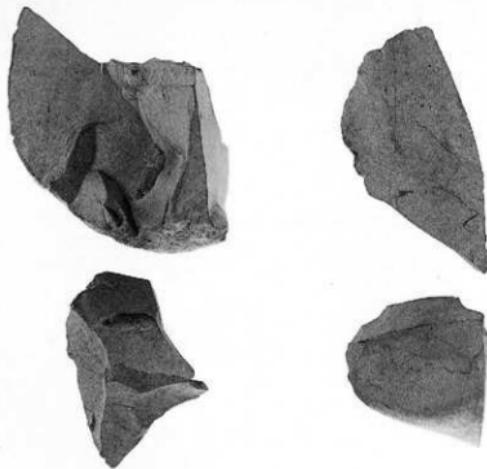
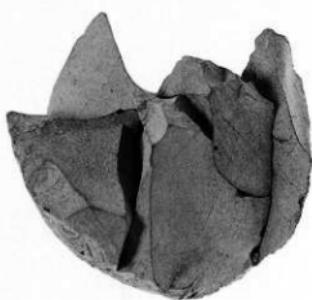
PL.9 御堂原遺跡（第2次）出土遺物 2



PL.10 御堂原遺跡（第2次）接合資料1



PL.11 御堂原遺跡（第2次）接合資料2



PL.12 御堂原遺跡（第2次）接合資料3

報告書抄録

ふりがな	みどうばるいせき
書名	御堂原遺跡（第2次）
副書名	携帯電話無線基地局建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	延岡市文化財調査報告書
シリーズ番号	第33集
著者名	高浦 哲
編集機関	延岡市教育委員会
所在地	宮崎県延岡市東本小路2-1
発行年月日	2007年3月31日

所取遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
みどうばるいせき 御堂原遺跡 (第2次)	のべおかし おかもとまちあざ 延岡市岡元町字 みどうばる 御堂原	452033	4021	32° 33' 45"	131° 33" 52"	2006/0518 2006/0616	55.0m ²	携帯電話 無線基地局
種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項				
散布地	先土器時代	礫群	剥片尖頭器・石核 剥片・石斧					

御堂原遺跡（第2次）

携帯電話無線基地局建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

延岡市文化財調査報告書第33集

2007年3月31日

発行：延岡市教育委員会
宮崎県延岡市東本小路2-1

印刷：明巧堂印刷株式会社
宮崎県延岡市古川町82-10